

**2025年度 織田ファッション専門学校
学校関係者評価報告書
(令和7年度)**

評価対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日

**織田ファッション専門学校
学校関係者評価委員会**

1. はじめに

2025年（令和7年）4月1日～2026年（令和8年）3月31日を評価対象期間とした自己点検評価報告をもとに織田ファッション専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここにご報告いたします。

本校が社会およびファッション業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2026年5月12日（火）10：00－11：30

会 場：織田学園第8校舎 理事長室

2. 学校関係者評価委員（敬称略）

氏名	所属	役職等	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校 進路指導協議会	顧問	有識者
滝浪 徹也	オフィスクラウン 株式会社	スタイリスト	関連業界 卒業生
内藤 久美	株式会社 辻洋装店	技術職	関連業界 卒業生

3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について評価委員に報告を行い、自己評価の評価点（3・・・基準を上回り、特筆すべき取組等を行っている。 2・・・基準をおおむね満たす。 1・・・基準を満たしておらず改善が必要。）が適切か適切でないかを学校関係者評価委員3名よりそれぞれ評価をいただいた。
また、具体的な意見や提言もいただいている。

4. 自己評価に基づく学校関係者評価

項目1. 教育理念・目的・目標

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	3	適切3
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられていること。	3	
教育理念やポリシーが学内外に広く公表されていること。	3	

【評価結果の自己分析】

- ・教育理念を踏まえ、業界のニーズに向け養成する人材像を明確にしている。
- ・教育理念やポリシーはホームページやパンフレットで公表している。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・パンフレットは毎年ワクワクするような写真や文章で、魅力的だと思う。
- ・学校案内やHPで、学校の強みや目指せる職業などが明記されている点は評価できる。
- ・3つのポリシーをHPに掲載している学校は少ないので評価できる。
- ・ディプロマポリシーは「ファッション業界の初期キャリアで必要とされる知識や技術を修得している」など、卒業時に求められる人材像を明示することが望ましい。（現在は「本校所定の課程において、各学年ごとにその履修すべき教科目を終えた者には修了の旨を認定する。」と、学修の面にしか触れていない。）
- ・トレンドの移り変わりが激しい業界なので、引き続き時代に合わせた対応を続けて欲しい。

項目2. 教育課程、教育の実施、学修成果

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	2	適切3
授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	3	
企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。【注）職業実践専門課程】	2	
学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	3	
卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	2	
学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	3	

【評価結果の自己分析】

- ・養成する人材目標を実現するために必要なシラバスを設定し、実行している。
- ・就職に関して、学生が望む進路への就職は100%を達成した。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・企業との連携は実施されているものの今後の拡充を検討している。
- ・必修にしている検定については合格率の向上を目指している。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・就職率100%はすごい。学生に対して就職先の具体的なイメージや目指せる所のビジュアルを分かりやすく伝えられているのだと思う。
- ・企業との授業などはとても勉強になると思うので、積極的に続けて欲しい。
- ・職業実践専門課程に認定されているので、教育課程編成委員会での意見をもとに授業の充実・改善をして欲しい。特に企業との連携カリキュラムなどについては、今後の拡充を検討しているとのことなので、早急に検討し、拡充して欲しい。

項目3. 学生の受け入れ、学生支援

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	3	適切3
学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	3	
学生の学力や学習状況を把握し、補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3	
カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	2	
留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	3	
学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	1	
学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	
学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	

【評価結果の自己分析】

- ・学生の受け入れ、学生支援に関しては概ね実行できている。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・学生の心身の健康に関して、必要があれば個別対応をしているが体系的な整備・運用はできておらず、今後適切な対応のための検討が必要。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・学生の一人ひとりの環境や生活など、人間性も含めると多種多様なので、個別対応は大変なことだと思う。専門的な知識も必要になると学校の中だけでは行き届かないこともありそうに思う。学生支援も視野を拡げた運用が必要だと思う。
- ・学生募集、選抜方法等に関しては問題無いと思われる。
- ・経済的困難を抱える学生に対する相談・支援はきちんと行われているようだが、今後も家庭との連携や教職員間で学生情報を共有し、学業と両立できるように支援して欲しい。
- ・昨年も提案したが、メンタルヘルス相談については学外機関との連携だけでなく、学内カウンセラー配置についても検討して欲しい。
- ・学生が気軽に相談できる環境を作ることを検討して欲しい。

項目4. 教育実施組織、教員

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	2	適切3
教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。	3	
学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	2	
教員間で連携、協力体制を構築していること。	3	
学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	2	
-特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。【注）職業実践専門課程】	2	
教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。【注）職業実践専門課程】	1	

【評価結果の自己分析】

- ・目標とする人材教育を行うため必要に応じて適切な教員を採用・配置している。
- ・教員の授業数、またそのスキルについて把握し評価している。
- ・教員間のコミュニケーションを積極的に取り協力体制を整えている。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・教員のスキルアップ研修に関しては、企業との連携をさらに深め組織的に実行する必要がある。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・モデリスト協会や各種セミナーが開催されている場に行くのもとても勉強になるし、情報も手に入りやすいと思う。忙しい中だと思うのでオンラインセミナーなどに参加するのもアリだと思う。
- ・教員の配置、組織編成等についてはほぼ適切だと考えられる。
- ・教員の研修については、職業実践課程では企業と連携して行うことになっており、連携企業や外部研修への参加の機会を設け、その成果を学生に還元するようにしてほしい。

項目5. 教育環境

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	3	適切3
インターネット接続環境を整え、学生が必要に応じて情報検索等ができること。	3	
学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2	
火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。	2	
施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。	3	
施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。	2	

【評価結果の自己分析】

- ・教育環境の整備、施設設備の点検に関しては概ね実行できている。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・安全対策、防災対応に関して、専門家の指導のもと改善に努めたい。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・防犯に関しては、不審者も増えているので、学生に限らず、教職員の皆さんにも気を付けて欲しいと思う。
- ・教育環境の整備、施設設備の点検等に関しては適切に行われていると考えられる。学生アンケート等から得られる学生のニーズを検討し、次年度に反映できるように努めて欲しい。
- ・学校は「学生の安全」が第一なので、安全・防犯対策には万全を期して欲しい。
- ・「AI」は今後のファッション業界に大きな影響を与えると思うので、それを学び活用するカリキュラムを検討して欲しい。

項目6. 教育活動の基盤と改善・向上の取り組み

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
学校が策定している事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	2	適切3
学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	2	
学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	2	
学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。	3	
-特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年回以上開催していること。【注）職業実践専門課程】	3	
学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	
学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	3	
当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	3	

【評価結果の自己分析】

- ・学校評価の実施と改善については組織的かつ継続的に行っている。
- ・SNSやホームページを活用し学習成果の公表ができています。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・事業計画について、教育目的、教育目標の実現に向けた内容をより具体的に明記する必要がある。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・人手不足は多くの業界にあると思うが、ただ人がいれば良いというものでもなく、経験や技術を持った人がどの位いるのか、必要なのかということも課題だと思う。まずは現状の把握と整理だと思う。
- ・学校評価の実施と評価結果に基づく改善については、この数年で意識的に行われるようになったと言える。HPでの「情報公開」についても改善されている。
- ・SNSやHPを活用した学校の教育活動、学修成果の情報発信も出来ているが、さらに継続的に発信していくように努めて欲しい。
- ・情報発信に活用しているSNSは外部の意見を集めることもできるので活用を検討して欲しい。

5. 総評

○このような取り組みを通じて、見えなかったものが見えてくると思うが、長期的に取り組むべきこと、すぐに出来ることなど、教職員が互いに意見を出し合って「共に」目標に向かうことが大事。そのような姿勢は学生にも伝わるし「無意識な教育」となると思う。

○社会マナーやモラルなどの一般常識が「多様性」と称して揺らいでいるように感じている。学生各々の育った環境の影響もあると思うが、学生が世に出て恥ずかしくないよう、後ろ指をさされないよう、見守り、教えていって欲しい。

○多摩地区にはファッション系の専門学校が無いので、多摩地区の高校との関係を深め、学生募集につなげて欲しい。

○中期事業計画と当該年度の事業計画に基づいて教育活動を行い、その上で学校評価を実施し、その評価をもとに改善を図るというPDCAサイクルに基づく学校運営が組織的かつ継続的に行われることが望ましい。この数年でかなり意識的に取り組まれるようになったと感じている。ただ、今年度の自己点検評価報告書は、それぞれの項目についての現状の説明が具体的に書き込まれないため、現状把握が難しかったので、この点の改善をお願いしたい。

○高校の進路指導が大学進学に重点が置かれ、専門学校に目を向ける高校が少ないのが現状ではあるが、入学者確保のために、SNS・HP等で学校の魅力や活動を積極的かつ効果的に発信すると共に、高校との連携で関係を深める取り組みをお願いしたい。

○専門学校は2026年度から自己点検評価が義務化され、第三者評価が努力義務化されることになった。評価機関による第三者評価の実施について、織田学園の社会的評価を高めるためにも、2～3年のうちに実施することについて検討をお願いしたい。

○学校案内パンフレットについては、少々説明的過ぎる印象。「勉強だけ？」という印象を持たれそうなので、第一印象が「楽しそう」と思ってもらえるように、行事関連の紹介を増やしたり、教員の露出を増やしたりして、学生と教員の距離の近さを感じられる工夫をした方が良いと思う。

○学園での学びを経て「作り上げられたモノ」に関心がある人が多いと思うので、ビジネス科ならプレゼン発表の内容、スタイリスト科ならば課題で制作するスタイルブック、服飾課程であれば製作した衣装やコンペ入賞作品の制作過程と完成品を紹介するなどすればより関心を得られると思う（パンフレット）。

以上

織田ファッション専門学校
学校評価委員会